

校門坂

～ 輝く薩摩中央 ～

令和元年 10月9日 (水) 南日本新聞

本校生徒がさつま町女性議会に参加し、南日本新聞に掲載されましたので紹介します。

教育や交通 当局追及



さつままで初の女性議会

女性町議のいないさつま町で、初めての女性議会が6日、町議会議場であった。傍聴席が埋まる中、高校生や女性グループの会員ら10〜60代の一日議員7人が登壇。教育や交通など町政への疑問や要望を日高政勝町長(74)ら当局へぶつけた。

高校生ら7人堂々

質問に立つ一日議員の薩摩中央高校生
11月6日、さつま町議会議場

同町では2017年4月の町長選・町議選が無投票に終わり、今年の6月議会では一般質問に1人しか立たなかった。元町議で町女性団体連絡協議会(7団体)会長の木下敬子さん(71)らが「沈んだ町だと思われたくない」と呼び掛け、町と模擬議会を企画した。木下会長が議長を務め、一日議員は小学校再編や中学校通学バスの課題、商工振興などについて質問した。

上別府ユキさん(62)は永野は「高齢者がマイカーに頼らず暮らせる町に」と、空港バス利用者への補助やイベント時の臨時便運行など、公共交通網の充実を要望。「今の状況で、町長なら運転免許を返納するか」と切り込み、議場を沸かせた。

薩摩中央高校の2年生2人は、新規起業や生徒確保への支援を求めた。枕辺愛純さん(16)は「国立大学への進学者だけでなく、農業や福祉の専門学校などへ進む生徒にも助成を」と提案した。日高町長から「前向きに検討したい」との答弁を引き出し、「緊張したが、思いを伝えられてよかった」。選挙権を得る2年後は町長選・町議選があり「投票に行きたい」と話した。

傍聴席には45人が訪れ、うち女性は38人。町議会(16人の議員11人も別室のモニターなどで見守った。平八重光輝議長(74)は「町政への関心を高める取り組みに感謝している。提言を議会でも生かしていきたい」と話した。

05年に発足した同町の女性議員は、17年に勇退するまで3期務めた木下会長1人。

(本坊三子)